

第 11 回 神保原駅北まちづくり協議会 会議録

概 要

開催日時	令和 7 年 2 月 10 日（月） 10 時 00 分～12 時 00 分
開催場所	上里町役場 大会議室
公開又は 非公開の別	公開
出席委員 （敬称略）	為国 孝敏 並木 孝之 鈴木 光雄 竹内 広幸 木村 芳雄 佐々木 輝伸 大田 幸子 河原塚 啓史 栗原 龍一 宮下 寛 黒澤 望 島田 未夢 茂木 一美 上村 登
代理出席 （敬称略）	目黒 貴史（長沼 克） 松井 康哲（平谷 隆行）
欠席委員 （敬称略）	野村 智香子
出席状況	委員総数：17 名 出席：16 名 欠席：1 名
事務局	まちづくり推進課 山中課長 伊藤係長 清野主事 津根技師補
傍聴者	1名

会 議 の 内 容

	1.開会 （事務局から開会のあいさつ） 2.あいさつ （為国会長からあいさつ） 3.委員の出席状況報告 （神保原駅北まちづくり協議会設置要綱(以下「協議会設置要綱」)第 6 条第 3 項の規定に基づき、事務局から委員の過半数の出席が確認されたため、本会議は成立） 4.会議録署名委員の指名 （協議会設置要綱第 8 条第 2 項の規定に基づき、為国会長が「鈴木委員」、「黒澤委員」の 2 名を会議録署名委員に指名） 5.内容 （1）報告事項について ・マーケット開催報告 ・ローカル会議、まちなか再生ワークショップ開催報告（道路線形・未来ビジョン（案）） （事務局から説明）
--	--

◎質疑応答

黒澤委員 未来ビジョンの中で、トライアル跡地の今後の予定が示されているかお伺いします。

事務局 現状、町としてのビジョンは示せていません。民間の方でこの土地を使いたいという状況を作るために未来ビジョンで示した10年で町としての人口対策や商業施設などを立地する基礎体力をつけていきたいと考えています。これがうまくいけば自然と使いたいと思う方が出てくると思っています。

島田委員 マーケットの満足度について、非常に不満と1名が回答していますが、その理由が分かりますか。

事務局 アンケートの中に、お昼前に人が集中してしまい、歩いていて少し危険だったという意見がありましたので、交通整理を強化していきたいと思います。

茂木委員 私自身で感じているのは、トライアルが最大のポイントになると思っています。そのような事を協議会の場だけではなく、議会の中でも本気になってやってもらいたいと思っています。

事務局 今回はこの駅北のまちづくりの全体をしっかりと考えていただきたいというのもあって、全員協議会に報告させていただきました。議員さんの中からは思ったより1年間で進んでいると感じていただいた方もいらっしゃる、商業施設の跡地については特に何もお示しがなかったというお話もいただいています。このような報告を定期的に行っていくことで、議会からも提案をしていただきたいと思っていますので、そういった関わり方を継続していきたいと考えています。

上村委員 マーケット時に芝居をやるとか、プラスアルファの部分をすれば広がりが出てくると思っています。それから、神保原東通り線ですが、南から来る人よりも、北のエリアからアクセスが便利になるということでしょうか。

事務局 駅北東通り線につきましては、東側の地区の5丁目に住む方が駅に行くまでの利便性をあげる効果があると思っています。町としては利便性をあげるだけではもったいないと思っています。周辺の開発も含めて行えれば皆様にとって良いのではないかと考えています。もう一点のマーケットの関係ですが、出店者からも購買目的の同じイベントだけでは飽きられてしまうという声をいただいています。飽きさせないために、文化的な取り組みを行っていくことも必要と考えています。今後、こういったものを生み出すためには、このマーケットも実行委員会等を作り、こういった活動をやりたい人も主催者側に回っていただくような仕組みを来年度以降、構築していきたいと考えています。ぜひ何か活動をやりたいという方が参加いただけるようお話しいただけるとありがたいです。

佐々木委員 マーケットを行っている中で、一過性で終わってしまうというお話がありました。これは現状ではしょうがないと思います。今は試行的にイベントを行っている段階と思いますが、例えば、子育て世代に向けたオープンマルシェにして、子供たちが大人と交流できるような、もの作り地域にする。そういったところに貢献できるワークショップなどを混ぜることが重要と思っています。そこに定期的・持続的に集まれる場所を準備しておく1年のカリキュラムの中で、ワーク

	ショップの方々と連携することで、子供たちが学校では学べないもの作り、いろいろなことに関心を持てるようになってくる。マルシェの中にいろんな可能性があって、こういったものを行っていくと少なくともマルシェが開催された場所の一部でそういう活動が行われ、人が集まる一つのきっかけになります。音楽も非常にいいのですが、町で音楽活動されている方々、もしくはアート活動をされている方の足場になるものを一つ一つ作っていかないと、そこから離れてしまうということがあると思います。ですので、そういった場ができていくと、今やっているマルシェも非常に有効で将来を見据えていけるのではないかなという感じがします。あと何度か開催していると、出店される方々って大体偏ってしまいます。やっぱり毎回何かちょっと違った刺激がある、非日常が感じられることが継続していく軸になると思います。いろいろな角度から地域との連携で商品開発に繋がる、ひょっとしたら就業支援や店の開業に繋がるとか、いろいろな可能性を感じられるまちづくりを今は行っていくところじゃないかと、そんな感じがしています。
為国会長	鈴木さんはローカル会議にも出席していますが、その時の様子などはどうでしたか。
鈴木委員	ローカル会議の雰囲気をお話させてもらいますと、地権者の方たちが、今の駅通りのままでいいと思っている人はいません。そういう意味では、駅前通りは拡幅して整備する必要がある。それと地元の人たちがやはり一番気にしているのはトライアルの跡地の問題で、まちづくりの視点で言うと、核としないわけにはいかないのではないかなと言っています。また残念ながら、駅通りで商売ができるというふうに思っている人はまずいない。ローカル会議ではグループに分かれましたが、外部の人は、いろいろとアイディアを出してくれて、話し合いがすごく盛り上がるんです。しかし、本音のところに行くと、駅北に誰も来ないというのがあるんです。もう一つ私が心配しているのは、当初は駅通りを中心にどういうまちづくりをするかということから、10年計画になったときに、その駅通りが抜けちゃっているっていうふうに思っている人がいます。要は中山道と17号の間の重点的な整備やクランクの解消。東通り線については未利用地があるから町としては魅力だと、そういう話があると、なぜ今まで3回のワークショップをやって道路の形を検討していたのか、どうやったらにぎわいが出来るのか、一生懸命みんな話したのが、どこかにいってしまったんじゃないかと思っている方が結構いるので、やはり中核は駅通りなんです。こういう手順でとりあえず10年前計画でやるというところを、しっかり地元でPRしていないと、地元の人が盛り上がった意識が沈静化してはもったいないので、そこは役場としては意識してほしいと思っています。
事務局	鈴木委員からお話いただいたような、皆さんが思っていた停車場線というメインから離れてしまったのではないかなというご意見もいただきます。そこは、これから時間をかけて説明をさせていただこうと思いますが、ただやはり我々が思っていることは、停車場線を拡幅するだけでまちづくりができるとは思っていません。停車場線が拡幅された後に、何とか店舗がやっていけるようにするためには、まずお客さんを生み出すというところに焦点を当てて、この10年の目標に向けてやっていきたいと思っています。
為国会長	次に（2）令和7年度の取り組み（案）について、紙資料はありませんが、事務局の方から説明いたします。

	(2) 令和7年度の取り組み(案)について ・県道神保原停車場線の事業方針について(本庄県土整備事務所) ・上里町の新年度事業について (事務局から説明)
事務局	令和7年度からの取り組みということで、停車場線の事業の方針につきましては、事業主体であります本庄県土整備事務所の方からご説明をしていただければと思います。
本庄県土整備事務所	先ほど話がありましたように、停車場の整備はやはりまちづくりと一体で考えているということがございます。先ほどご説明いただきました未来ビジョンの案により、大規模なものじゃなくて地元にあったまちづくりを皆さんにお示したところ、地元の機運と併せ、まちづくりの方向性が見えてきたというのは所感としてあります。前回の協議会に道路管理者としまして、神保原小学校までの間、通行者が危険となる停車場線と旧中山道のクランク交差点を優先して検討したいという発言をさせていただきました。まず事務所としてクランクを解消し、交差点整備を進めていく方針で県庁と上里町さんと調整を進めております。令和7年度の取り組みの予算ですが、来週以降県議会が開催されますのでお待ちいただければと思います。一番気になるのが、地元と調整せずに事業化した結果、協力が得られなく事業が進まなくなったというのが非常に多くございますので、地元の応援というのは非常に心強く感じております。この区間の事業を進めていくには、皆さんに対してご理解や今後の協力等をお願いしていく必要がございます。未来ビジョンで示した10年後の第2期の整備を確約するものではございませんが、第1期の成功が鍵であるということも言うておりましたので、引き続き熱意をもって進めていただければと思います。
埼玉県市街地整備課	大型商業施設跡地が駅北口のインパクトとして考えざるを得ないと思いますが、民地である以上行政が全てコントロールできないことは分かっています。マーケットなどでは駐車場としているので行政とのつながりはあると思うのですが、今後の関わり方について何かあれば教えてください。
事務局	お話しの通り、民地なので、行政の方で全てがコントロールできるというわけではありません。民地の開発なので、いつ実現するかもなかなか約束ができないようなものだと思います。そんな中で、町としては駅北のまちづくりを少しずつ進めなければいけないので、土地の使い方ということに関しましては、話し合いの場を作っていくべきと考えています。行政とすると、そういった場を作ることが平等なのかという観点も少し出てくると思うので、関わり方については、慎重に考えていきたいと思っています。
大田委員	非常に面白い実験がたくさんありそうですが、まず社会実験で空間を作るというところですかね。マーケットの中でもベンチとかを作ったりして、スタートを切られていると思いますが、個人的に一つだけ要望として、可能であれば写真映えする場所を作っていただきたい。これでだいぶ若い子たちの反応が違ってくると思いますし、子育て世代の若いママさんとかも興味を持ってくれると思うので、一つ目指す先として入れていただけると嬉しいと思います。あと、空き家の活動が進んでいるようで、地元の方たちが積極的に動いてくれるのは非常に理想的なことです。これを持続していただいて、この先どうにか収益化を目指して、可能であれば、この辺りに講師とかワークショップとかでもいいので、そのシステムを作るところなどに支援できたらいいと思いました。全体的にやりたい方がポツポツ出てきているという話を聞きましたので、本当に小

	さなことでも音楽活動でも文化活動でもお店をちょっとやってみたいとか、やる気のある方をいかに支援していくかが大事になると思います。熱量のあるうちに、とりあえずスタートを切る舞台があるっていうのは非常に心強いんですね。そんなのやっても無駄だよって言っちゃうとそこで終わっちゃうんですけど、とりあえず面白そうだからやってみようよって言うってくれる人たちが周りにいてくれること、もちろんそれが地域の方でも役場の方でもいいのですが、そういう人たちが増えてくれたらいいなと思いました。
事務局	ありがとうございます。事務局では、こういった活動をしてくれる方が出てきたことが今まで目指していた一つのにぎわいの形なので、これを取りこぼさないように、何とか支援していきたいと考えています。難しいのが寄り添い過ぎると離れていくという事もあり、関係の仕方が難しいと思いながらやっています。最低限の支援の仕組みは設けていかないと、なかなかやりたいという方ができない場所になってしまうので、何とか支援の継続ができるようにしていきたいと思います。
為国会長	私の経験で JC が動くとうまくいく。そのパワーで動けるような児玉青年会議所であるかどうかも含めて教えてもらいたい。
こだま青年 会議所	トライアルの跡地というのはすごく重要だという印象を受けました。先ほどの JC のパワーというお話をいただきましたが、その土地を一旦上里町で買い上げることが出来ないのかと思いました。例えば、住民の総意ということで、それが実現してからちゃんと町の物になれば、町主導で行うことができるのではないかと思います。ただその実現にはいろいろな法律関係や難しい部分もあると思いますので、そういった部分からも皆さんのご意見を頂戴しながら、町が活性化するような形を作っていければと思いました。
為国会長	他はどうでしょうか。なければ、今後進めていく中において、この先 10 年に向けた今後のまち作りにおけるエリアプラットフォームの取り組みがございましたので、説明していただければと思います。 (3) 今後のまちづくりにおける取り組みについて ・まちづくり活動に対する支援体制について（エリアプラットフォーム） （事務局から説明）
事務局	今後のまち作りにおける取り組みの中で課題とされる活動者に対する支援という話も、いろんな活動する方が出ている中で、活動の調整をしていく場としてやはりエリアプラットフォームという、定例の会議の場のようなものを作るべきと考えています。今回も和田山トイという駄菓子屋を再生するという活動は、夏ぐらいやろうと思っているという話を聞いてからもう 5 月には出来上がるといったところから、役場の組織としては予算の面からもなかなか付いていけないところもございますので、やはり第 3 の組織が有効になるものと感じております。ここには、活動をする住民や店舗を持っている方、また空き家を提供していただける地権者さんも入っていただくことが大切です。店舗というところでは、商工会や先進的な事例をよく知っている大学の先生にご支援をいただいたりしながら、話し合う場としてエリアプラットフォームの構築が町にもいづれ求められるものだと考えています。今回この組織体制までの考案ができていない状況ですので、ご意見をいただければと思います。

商工会	マーケットについては盛況に開催されておりますが、商工会の機能が活用できるような役割を与えてもらえるとありがたいと思っています。具体的には出店希望者に対し会員さんやそれ以外の方にも声をかけていきたいと思っています。それと、協議会でも話し合っただけでしたが現在の進捗状況をお聞かせください。
事務局	まずマーケットにおける協力体制ですが、町の狙いが駅の北口に店舗を持ちたいと思っていただける方に参加してもらいたい考えもあったので、おそらくその部分で商工会としては商工会員さんと呼ぶことになる。商工会員さんは既に町内に店舗を持たれたりしており、マーケットに参加をして駅の北口に店舗を持ていただく可能性は低いという思いもあって、今まで役場の方で、出店者を取りまとめておりました。ただ、商工会主体で駅北に店舗を持ってもらうためにという方向性であれば、一緒に考えているので、そこは相談させてもらえればと思います。
商工会	商工会の青年部がウィンターフェスティバルを開催しましたが会員さんじゃない人が半分以上おりましたので、そういう方にも今後、声をかけていきたいと考えています。
事務局	もう一つ進捗状況ですが、先ほどお示しをさせていただいた10年のまちづくりが、具体的なところまで来ており、ここから10年でまちが動いていくと思います。来年度以降の社会実験などを含めて、目に見えるものを提供する形を目標としています。
竹内委員	全員協議会の意見の中に高校誘致が白紙になってまちづくりの方向性が見えなくなったということですが、色々やることが変わったとしても、本来、方向性というのは変わらないはずだし見えてくるものだと思います。それとマーケットの満足度が90%を超えていることは大変、素晴らしいことだと思います。しかし、このマーケットを開催する町の立場として、本当に満足であったかという評価でいいのか。このマーケットの満足度というのは、マーケットそのものを楽しんだという満足度であって、このマーケットの全体的な方向性の中の位置付けの中で、町としてどう評価するのが大切だと思います。そこを把握して今後のプラン作りに活かさればよいと思いました。
事務局	委員お話しの通り、まち作り計画に沿って事業計画していますので、確かにぶれることはないと思っています。今回難しかったのは、そういうマスタープランから事業化していくと、どうしても時間がかかり、時間をかけることでそれだけ町民から離れていってしまう場合もあるので、急がなければいけない部分と計画するところのバランスを取るのが難しかったと感じています。ですので、今後10年のまちづくりということで早急に取りまとめて、お見せすることを重視したところがあります。会議に参加しない一般の町民から見るとその辺が理解できないのかもしれないので、説明する場を今後も設けていきたいと考えています。またマーケットに関しましては、毎回、新しい取り組みを入れて、試行錯誤していく中で、もっと精度を上げながらやっていきたいと考えております。
竹内委員	マーケットに関しては一番懸念され言われた通り、単発で終わってしまい、そのあとの持続性に繋がらない、そことマーケットの繋がりのところを、どういう形のしかけを作っていくかが、繋がっていくかの工夫がもっと必要ではないかと思います。

為国会長	もっとソフト事業を動かしていくには、国の補助金を検討したり、行政の中でもどう勝負するのか、もっと外に出していかないといけないと思います。先進事例をマネするのでなく上里町がこれからやっていくことをマネされるくらいにやってもらいたいと思います。それでは、本件について終了したいと思いますですが全体を通して何かありますか。
事務局	最後に、今後のまちづくり協議会についてご説明させていただきます。委員の皆様には2年の任期中で協議会にご参加いただきましたが、今回で今後の10年のまち作りについて、目標としていた実行計画がある程度示せたので、協議会としての目的が達成できたと考えています。今後につきましては、商工や活動する方への支援といった活動に切り替わっていくと思っており、この協議会に代わる皆さんで話し合う場としてエリアプラットフォームというものを構築しようと考えておりますので、協議会については、この任期をもって一旦、解散させていただきたいと考えております。異議がなければその方向性で進めさせていただきます。（委員から異議なし） 今後の組織体制を検討する中で、引き続き皆様と関係性を持ちながら、まちづくりに関わっていただきたい方にお声掛けさせていただきますので、その時はご協力のほどお願いできればと思います。長い期間ではございましたが、委員の皆様には大変ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
並木委員	6.閉会 （並木副会長から閉会のあいさつ） 今事務局から話がありましたように、当初この会に来たときは、鈴木さんから道路は何も動いてこなかったというお話の中で始まった。もちろんトライアルの跡地の話についても、インパクトが大きいので、そこをどういうふうに活用するかということから始めたと理解しております。その後、基本計画を作ったり行政のいろんな努力で、マーケットができたり、地元の人たちのローカル会議をやっていただいたりしました。ここに来まして、事業が動き始めたということで来年度は事業元年じゃないかなと思っています。動き始めるといろんなインパクトが波及していき、それがまちづくりに繋がっていくんだろうと思っています。お話にありました、エリアプラットフォームの話もいろいろな担い手が必要で、これはまち作りにとっては常識ですが、そういう人がいないとできないんですね。ここに参加の方もいろんな分野の方々いらっしゃいますけれども、皆様方にもその担い手の一部になっていただいたりして、これからこのまちづくりが進むことを期待しております。長い間、皆様ご苦労様でございました。